

# 肝臓に対する生体肝移植後の臨床病理学的予後因子の解析

1996年から2009年4月までに九州大学第二外科にて肝臓に対して生体肝移植を受けられた方を対象

## 【はじめに】

肝細胞癌の治療のオプションとしての生体肝移植は定着し、5年生存率80%超と良好な成績をおさめている。肝臓に対する確立された基準としてミラノ基準（肝臓が単発5cm以下、3cm3個以下であれば再発はすくなく良好な成績がえられる）があります。しかしながら、ミラノ基準を超えた方々でも再発のないかたは多くみられ、この基準を広げようとする試みが世界中で行われています。今回われわれは当院で行われた肝臓に対する生体肝移植の患者さんの臨床病理学的因子を解析し、予後に与える影響を検討します。

## 【目的】

肝臓に対する生体肝移植を行った患者さんの臨床情報（採血結果、摘出肝臓の顕微鏡による検索、CT、エコーなどの画像情報）を用いて新たな移植の基準を作成することです。

## 【研究内容】

患者さんの背景（肝機能、腫瘍マーカーCT、エコー、MRIなどの画像情報などを含む）、摘出肝の病理学的診断（肝臓肉眼型、組織学的脈管侵襲、腫瘍個数、腫瘍最大径など）と予後との関連を解析し、臨床病理学的予後因子の同定・検討を行い、精度の高い予後予測のための適切な症例選択基準を作成することです。

## 【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施内容過程、およびその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる内容は一切含まれません。

もし対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

## 【研究期間】

研究を行う期間は平成21（西暦2009）年12月21日より平成24（西暦2012）年3月31日。

## 【医学上の貢献】

肝臓に対する移植適応が明らかになれば、適切な症例選択が可能となり、移植成績の向上が望まれるとともに適応拡大により救命しうる方々が増え、最終的に肝移植による恩恵を受け得る方々が増えると考えています。

## 【研究機関・組織】

九州大学大学院 消化器・総合外科	教授	前原 喜彦（責任者）
	講師	調 憲
	助教	武富 紹信
	助教	副島 雄二
	助教	内山 秀昭
九州大学大学院 形態機能病理学教室	助教	相島 慎一
九州大学大学院 消化器・総合外科	大学院生	間野 洋平

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel 092-642-5466

九州大学 消化器・総合外科

調 憲